

鳴子瓜



鳴子瓜 東京都農林総合研究センター所蔵



美濃のまくわうり(伝統野菜)



発芽した美濃のまくわうり

まくわうり栽培



連休明けに定植して 6月24日

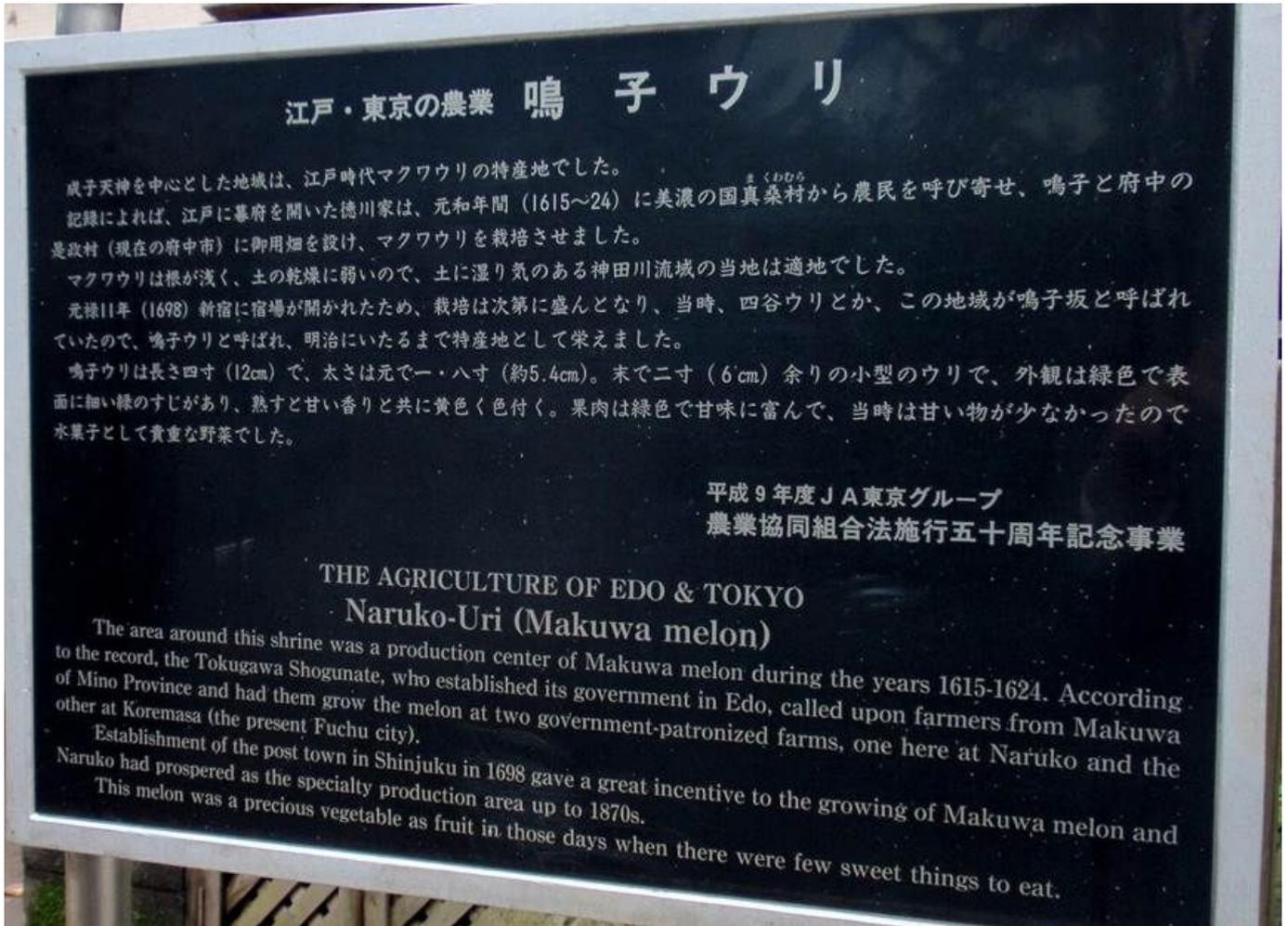


7月2日



収穫 8月10日~15日

鳴子うり



成子天神を中心とした地域は、江戸時代マクワウリの特産地でした。

記録によれば、江戸に幕府を開いた徳川家は、元和年間（1615～24）に美濃の国真桑村から農民を呼び寄せ、当鳴子と府中の是政村（現在の府中市）に御用畑を設け、マクワウリを栽培させました。

マクワウリは根が浅く、土の乾燥に弱いので、土に湿り気のある神田川流域の当地は適地でした。

元禄11年（1698）新宿に宿場が開かれたため、栽培は次第に盛んとなり、当時、四谷ウリとか、この地域が鳴子坂と呼ばれていたため、鳴子ウリと呼ばれ、明治にいたるまで特産地として栄えました。

鳴子ウリは長さ四寸（12cm）で、太さは元で一・八寸（約5.4cm）。末で二寸（6cm）余りの小型のウリで、外観は緑色で表面に細かい緑のすじがあり、熟すと甘い香りと共に黄色く色付く。果肉は緑色で甘味に富んで、当時は甘い物が少なかったため水菓子として貴重な野菜でした。